

しいのき



羽子板の正月

名誉館長 三隅治雄

「大空に羽子の白妙とどまれり」(高浜虚子)の句から、正月の羽子板遊びの情景を思い浮かべられる人は、どれほどいるでしょう。もう遊びの実用から離れて、正月飾りとして人目をたのしませる、いわば季節の美術品となりました。文献では、後崇光院伏見宮貞成親王の日記『看聞御記』永享4年(1432)正月5日の祭に、貴族と女官が羽子の古称であるコギノコを打ち合う遊びをしたというのが古く、またいつのころからか、羽子を突くと夏に子どもが蚊に喰われないなどの俗信を生みました。庶民間に流行したのは江戸時代で、1人で数え歌をうたいながら羽子をつく揚げ羽子や、2人以上で次々につく追い羽子が正月の街路を賑わせたものでした。羽子板の絵は正月の左義長の情景を描いたのが初期で、中期以後、花鳥や当年人気の歌舞伎役者の似顔を押し絵にした羽子板が評判をよび、これを飾ったのしむ風潮がつまりました。遊戯は消えても羽子板市がいまもひらかれるのもこの飾り羽子板の伝統が残されたためです。

お正月の遊び道具

羽子板

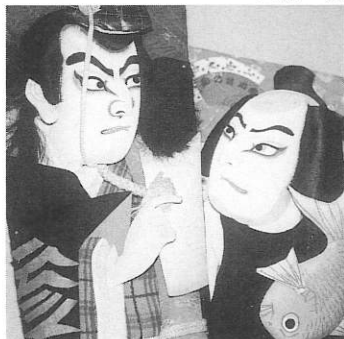
お正月の女の子の遊び道具といえば、羽子板があげられます。お正月の羽子板遊びがいつ頃から行われるようになったかは正確には分かりませんが、室町時代に書かれた『^{かがみもち}下学集』等にお正月に用いられたという記述が見られます。

羽子板の図柄は、藤娘や八重垣姫等のようによく見かける図柄ばかりでなく、その時々^の流行を取り入れてきました。

例えば、江戸～明治時代にかけて、人気歌舞伎役者の似顔絵が使われると、人人はひいきの役者の羽子板を競って買い求めました。また、大正～昭和初期に竹久夢二の絵が流行すると、目の大きな女の子が描かれました。現在でも、人気タレントなどの流行の羽子板は、羽子板市等で見かけることがあ



▲藤娘



▲歌舞伎役者の似顔絵

ります。かつて、中野区内のある旧家では、暮れになると、親戚からもらった羽子板を長押にさして飾りました。特に親戚の数も多くなるとたくさんになるので、長押に並んだ羽子板は、たいへん壮観だったということです。現在、羽根つき遊びは、羽根をつくとうるさいなどという住宅事情もあって今はあまり見られなくなりましたが、一方で、初正月を迎える女の子のための縁起物として羽子板を贈る風習も今なお続いています。

お正月展は、平成6年12月15日～平成7年1月14日まで開催しています。期間中、珍しい東海道五十三次の羽子板(東玉蔵)も展示しております。

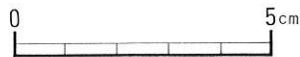
大地に眠る歴史

馬の墓から鏡が出土

日本人は昔から、鏡が好きといわれています。鏡は弥生時代から盛んに日本に輸入され、当時の有力者に特別な力をもった神器として珍重されてきました。卑弥呼が魏から百枚の鏡をもらい、やがてそれが大和政権への同盟のあかしとして日本中の地域首長に分配されたという説は有名です。

ところで、私たちの生活の中で、かがみもち・かがみわりという言葉があるように、現代でも鏡は特別な意味をもっているようです。

鏡はその放つ輝きによって、古代の人々を畏怖させ、為政者はその力を権威の象徴として利用してきたのです。



今回、江古田1丁目の御嶽遺跡の調査において馬の墓から鏡が発見されました。室町時代の国産品で、裏面には、海と松と二羽の雀で構成された文様が彫られている「松樹双雀鏡」と呼ばれるものです。室町時代の鏡で墓から出土する例は珍しく、埋葬された馬は「神馬」か、もしくは、時代からいっても「江古田原・沼袋合戦」に関連するものか、まだ、その性格は謎に包まれています。

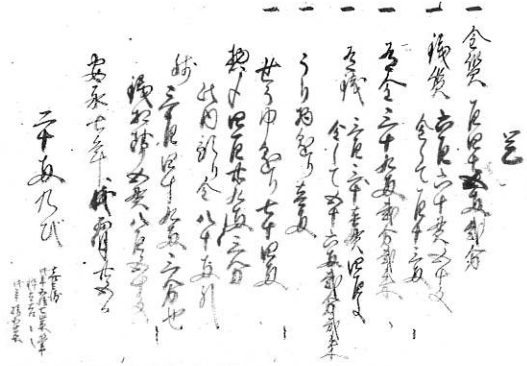
古文書つづり

お正月は決算の日

12月の終りころになると「歳末大売り出し」や「大決算」などといった見出しをしばしばみかけます。少しぐらい安くとも在庫を減らし、現金に替えて新しい年を迎えようという気持ちが働いているからでしょう。

右の史料は、安永7年正月に作成した山崎家の決算の覚え書です。当時山崎家は、質屋と醤油醸造業を営んでいました。紙面の都合で内容の細かな説明は省きますが、「金質・銭質」が質屋渡世に関係するもの、「売り物懸り・せうゆ懸り」が醤油醸造業に関係するもの、「有金・有銭」が現金を示しています。

最後に「二十両のび」と書かれています。前年と比較して、20両増えたことを示しています。泣いても笑っても山崎家にとって、これもお正月の行事だったのです。



覚
 一 金質 百四十五兩二分
 一 銭質 六百六十貫五文
 一 有金 三十九兩六分
 一 有銭 三百三十貫四百文
 金して五十六兩二分式朱
 一 売り物懸り 壹兩
 一 せうゆ懸り 七十四兩
 一 懸り 四百廿九兩三分
 此内預り金八十兩引
 残 三百四十九兩三分
 銭相違 百八十五文
 安永七年正月廿五日
 二十両のび
 喜兵衛 戊午五拾七歳半
 俵太吉 戊午拾五歳

中野往来

林芙美子の墓 上高田4-14-1 萬昌院功運寺墓域内

林芙美子の出生、学歴には諸説がありますが、戸籍上は、明治36年12月31日に山口県下関市で生まれたとされています。長崎、佐世保、鹿児島、尾道と移り住み、大正15年に市立尾道高等女学校を卒業しました。後に上京し、昭和3年『女人芸術』に発表した『放浪記』が、好評を博し、小説家として活動を始めました。芙美子は、流行作家として活躍し、『放浪記』を始め、『浮雲』、『晚菊』、『めし』など、多くの作品が、ラジオや映画等で上演されています。

昭和26年6月27日、47才で亡くなりました。墓石に書かれた文字は、川端康成の手によるものです。



中野昔話

ことしゃみせん 一

「ことしゃみせん」て書いて、看板が出てるから、「今年は見せないんだ」って言って、「来年でなきゃ見せない」っていうんで、来年また来て、その、琴や三味線教える先生が、お師匠さんのね、その人が、きれいな人だから、見たいと思ってきたら、「ことしゃみせん」って書いてあったから、来年でなきゃ見せないのかと思って、来年また出てきたら、また「ことしゃみせん」って書いてあったから、あの、何かがっかりしたとかかってね。っていうようなこと、小さいときに聞きましたね。母から。

(鷺宮 女 明治38年生)

『続中野の昔話・伝説・世間話』より

事業報告

各種事業経過

1994年10～12月

事業名	内容	期間
特別企画展	「木の文化ーかたちとぬくもりー」	10/1～11/19
企画展	「お正月展」	12/15～1/14
ミニ展	「酉の市と熊手展」	11/6～11/30
古文書講座	「入門コース」講師大友一雄氏（国文学研究資料館国立史料館助教授） 白井哲哉氏（埼玉県教育局生涯学習部学芸員）	10/22～12/10
史跡めぐり	「鷺宮コース」講師 大辻英昭氏（前中野区文化財調査員）	11/27
文化財調査	区内寺院文化財調査 御嶽遺跡 資料整理 片山遺跡 発掘調査 鷺宮四丁目民有地試掘調査	継続中 継続中 12/1～ 12/13～

寄贈資料一覧

1994年5月20日～6月28日
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
羽子板	3	能津 恵子
羽子板	1	峰田 光子
百人一首・鉄瓶	3	坂口 安彦
羽子板・風・百人一首	5	伊藤サチヨ
旧貨幣・羽子板他	多数	牧野 たけ
羽子板他	2	龍谷 ミツ
地図	1	宮坂 健二
雛人形、 着物	一式	鷺宮学園幼稚園
羽子板・カルタ他	14	伊藤 寿郎
羽子板	2	伊藤みつ子
扇子・半纏・羽子板他	多数	矢島きみ江
道具箱・香箱	2	篠 末光
日本人形・薬瓶	3	菅谷 美子
羽子板・風	4	兎島 勝
葉書・絵地図他	多数	中島 秀夫
レコード盤	多数	植田 啓介
五月人形	一式	須藤 雅彦
鯨尺他	7	吉次 義昭
百人一首	1	石川 慶一
『明治改暦ー「時」の文明開化』	1	岡田 芳朗
『新立川市史研究』	1	倉員 保海
『中野石佛散歩』他	2	石川 博司
へっつい	1	みずのとう ふれあいの家
五月人形	一式	真田カズエ

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

おひなさま展のおしらせ

第6回おひなさま展は、2月4日（土）から3月18日（土）まで開催します。今回も江戸時代のひな人形飾りをはじめ、たくさんのひな人形を展示します。また、期間中は、当館所蔵の江戸時代のひな人形（次郎左衛門雛）の一笔箋・テレホンカードや新しくなった絵葉書を販売致します。



▲「木の文化」展より

入館状況

1994年9月～11月（延 72 日間） (人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
8,657	50	827	9,534

発行年月日 1995年1月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田 4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 6 中教社第 8 号)